

スカイクロス

場 所	人 数
屋内・外	個人(団体)

◇ スカイクロスをはじめる前に

輪投げとゴルフをミックスさせたゲームで、布製のリングを使いゴルフのようにコースを回ります。安全性に優れ、子どもから高齢者まで一緒に楽しめるニュースポーツです。

用 具

- ・リング
- ・コーン



場所・コート

屋内、屋外を問わず、どこでもコースをつくることができます。また、主催者のアイデアで色々なコースを楽しむことができます。

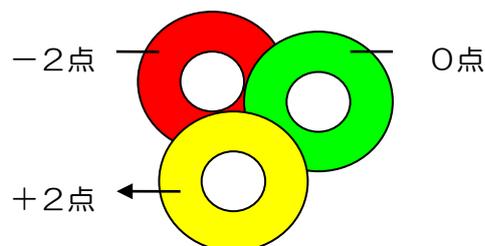
最小スペース 5m×15m

ゲームの進め方

2人から10人前後で1グループをつくる

- (1) 1人ずつ最初は順番に関係なく「氏名と投数」を告げ、コーン（目標）に向けてリングを投げます。
- (2) 2投目からは、コーンに遠い人から順番に投数に関係なくリングを投げます。
- (3) 全員がリングをコーンに入れて終了です。各コースの合計投数が少ない者が勝ちとなります。
- (4) 「ノルナーの規則」リングが重なった場合、上にあるリングは下にあるリングの枚数分得点が加算され不利になります。下にあるリングは上にあるリングの枚数分得点が減点され有利になります。

- 例：①一番下のリングは、上に2枚リングあるので-2点
②真ん中のリングは0点
下のリングの上に乗って+1点
上にリングが乗って-1点
③一番上のリングは、下にリングが2枚あるので+2点



ルール

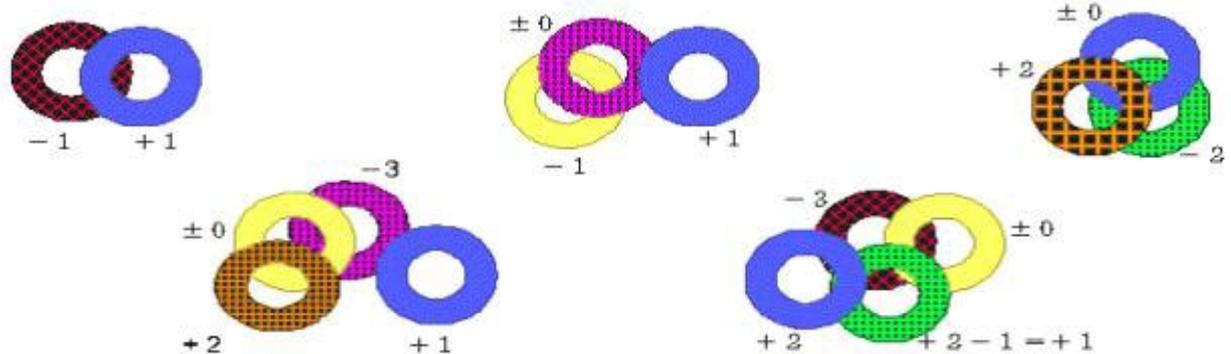
【ノルナー競技規則】

1. 常は約10名が1組となり、いくつかのコースを回ってスコアの少なさを競う。
2. 各自がスタートラインからリング（ディスク）を目標のコーンに向って投げ、それぞれリング落下地点まで行って、更に第2投目を投げる。それをくり返ししながら最後はリングをコーンに投げ入れて（輪投げ）、そのコースを終わる。
3. スタートラインから投げる順番は、直前のコースでのスコアが少なかった順とする。
4. 2投目からは、必ずコーン（目標）までの距離が遠い者から順に一人ずつ投げる。
5. 2投目以後に投げるときは、まずリングの後側に立ち、それ以上コーンに近づかないようにすること。
6. 次に投げる人より前方に出て、他の人が投げる行為を妨害してはならない。

7. 毎回自分の氏名と何投目かをコール（発声）してから投げる。これは各自のスコアの正確さを相互に確認し合うために必須のものとする。
8. 最終的に全コースのスコア合計が少ない人を勝者とする。
9. 輪投げ完了までに投げた回数から次に述べる規則によって修正した値をそのコースのスコアとする。

10. 【ノルナーの規則】

コースの途中において、何人かのリングが重なりあった場合、上になった人のスコアに1点（ペナルティとして1投分）を追加し、下になった人からはラッキー一点として1点を減らす。これはスカイクロス特有のルールであって、重なり方と加点または減点の数例を図によって示す。



目標のコーンから2m以内、または予め線で明示された範囲内に入ったときには、投げたリングが地上に落ちるまで、身体の一部を地面に着けたり足を上げたりするのはルール違反とする。違反したときの罰点は、1点。

11. 木の枝などに引っかかった場合、目標コーンに近づかない近くの地点から続投する（罰点 1）。ただし、道具を使わずに手で落とせる状況なら地上に落として、その地点からさらに競技を続行できる（無罰）。
12. リングがコーンに支えられて斜めに立った形で止った場合は、地上に落ちる途中の状態と見なし、リング上縁を指で押してコーンから遠ざかる方向に倒す。地上に倒したときに誰かのリングに重なることがあっても、当然ノルナーの規則は適用される。
13. 投げたディスクが他の競技者の身体に触れて落ちた場合には、止まった地点までを1投と数え、再投はしない。
14. リングが重なっているかどうかの判定は、静止した状態を真上から見た平面図だけをもって行い、接触の有無は問わない。
15. あとから投げたリングが別のリングの下に潜って重なることもある。その場合においても、結果的に上か下かの関係だけで加点減点を実行する。
16. 競技の進行途中で、コーンの位置が意図的でなく自然に移動することがあっても、元の位置に戻すことはしない。
17. 重なって静止した時点で加点減点がきまり、その後何らかの理由で重なった状態が解消しても、点数の補正はそのままとする。
18. その他にもローカルルールを適宜定めることができる。
19. 上記のすべては個人戦の場合であるが、チームごとに競うこともできる。そのときのメンバーは4～5名で編成し、各チームとも上位4名のスコア合計をもってそのチームの最終スコアとする